

### 1. 生徒の学習の評価（授業前後の変化）

（1）3名の生徒を取りあげて、同じ生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示して下さい。実技教科等で生徒の直接の解答が取れない場合は、活動の様子の変化について記して下さい。

生徒	授業前	授業後
1	「できる」 ●ラードに近い油脂であればできると思う。  ●油脂ならできる	「できる」 ちんすこうのおいしさは、サクサクとした食感にあるので、ショートニングでサクサク感を、バターで風味を合わせればできる。  「できない」 バターは風味や香りがあり、ちがうものになってしまう。ショートニングは逆に風味がないため味が無くなってしまう。
2	「できない」 ●ちょっとちがう。	「できる」 油脂の可塑性を考えて温度内で作れば食感はサクサクする。でも、ラードを使わないとちんすこうの定義が崩れてしまう。おいしさをどこに置くかで作れたり作れなかったりする。
3	「できない」 ●ためしてみないとわからない	「できない」 ショートニングはサクサクしているけど風味が出ない。バターは風味が強いが食感が出ない。結果、できない。

（2）生徒の学習の成果について検討して下さい。授業前、授業後に生徒が答えられたことは、先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べていかがでしたか。

生徒の導き出した答えは、授業前後を比較すると、理由を述べる場面において具体性が増した。また、油脂の特性を理解した上での解答が増えた点も評価できる。しかし、沖縄の食への文化的な側面への理解が深まらなかったことや、「おいしさ」は何を求めるかによって変わる、といった点にまで気づき考えることのできた生徒が少なかったことは反省点である。今後の課題としたい。

### 2. 生徒の学習の評価（学習の様子）

生徒の学習の様子はいかがでしたか。事前の想定と比べて、気がついたこと、気になったことをあげてください。

生徒は、課題解決に向けて積極的に取り組んでいた。友達との情報交換や話し合いに新鮮さを感じ、楽しく取り組めた生徒が多かった。感想として「様々な観点から物事を見て伝えることができた」「話し合って相手の考えを聞くと答えを出しやすくなる」といった意見が出たことは成果である。

生徒はこれまでの学習(文化祭でのサブレ作り・沖縄修学旅行)に照らして、課題を解いていたが、様々な知識が入っているがゆえに、正答を導かねばならないという使命感が優先してしまい、自由な発想や意見交換ができない班もあった。生徒への声かけの必要性や、資料の在り方など、再考しなければならないと気づかされた場面であった。

### 3. 授業の改善点

生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、次の3点について今回の授業の改善点を挙げて下さい。

授業デザイン（課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど）

- (1) 課題や資料の提示（発問、資料の内容、ワークシートの形式など）
- (2) その他（授業中の支援、授業の進め方など）

《改善点》

- ・ 生徒の実態に即した資料の作成(生徒同士が自由に意見が言える、伝えあえる内容)
- ・ 資料の在り方（こちらが全て用意するか?生徒参加型で資料を揃えるか)
- ・ 授業のまとめ方の工夫（まとめは必要か、否か。方法は?)
- ・ 時間の把握(生徒には時間が足りないと言われることが多い)
- ・ 教員側のねらいの把握(教材研究をしているうちに、ねらいや目的を見失うことが多々あった)
- ・ 生活に照らして考えたり、学ぶ意欲を高めたりする工夫ができなかった